

# Challenge Next

2005.8.29 **Vol.2** 福祉

W E L F A R E



**ダイハツは、豊かで快適なカーライフ  
の実現をサポートしていきます。**

日本はいま高齢化が進み、身体に障害をお持ちの方も増えています。

そんな中、誰もが不便を感じることなく自由に移動し、

意欲的に社会参加できる世の中へと、

社会全体が着実に変化してきています。

私どもダイハツは、自動車メーカーとしての責任を強く受け止め、

長年スモールカーと向きあい、培ってきた様々なノウハウを最大限に活かし、

誰もが気軽に乗れるスモールカーの、

福祉車両としての可能性を追求していくことが責務であると考えています。

ご利用者のニーズに合った様々なタイプの福祉車両の開発はもちろん、

大きな安心を感じていただける、

きめ細やかな販売対応やアフターサービスにいたるまで、

実際にご利用になられる方のニーズにお応えし、

快適なカーライフの実現をサポートしていきます。

クルマに乗って、誰もが自由に好きなところへ行ける。

家族や友人たちとともに楽しいカーライフを満喫できる。

そんな素晴らしい社会の実現を目指して、

これからも一歩一歩、進み続けていきます。



ダイハツ工業株式会社  
取締役社長 箕浦 輝幸

# Q. 福祉車両を必要とする人は 増えているのですか？

27才 免許取得を希望する  
車いす利用者の女性

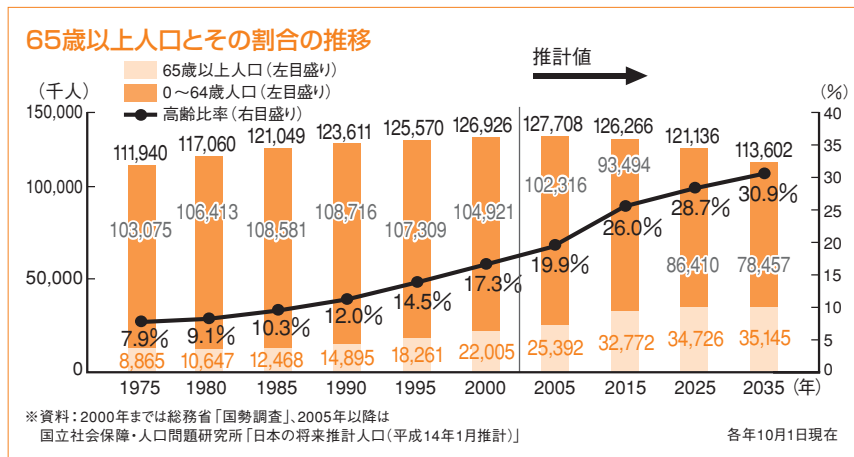


## A. 高齢化や障害者の社会進出が進み、福祉車両を必要とする人が増えています。

### ますます高まる福祉車両ニーズ

#### ○進む高齢化

日本は本格的な高齢社会を迎えています。2000年には、総人口に対する65歳以上の方の割合が17%をこえました。今後もさらに高齢化は進んでいき、2015年には26%を、そして2035年には30%をこえると言われています。



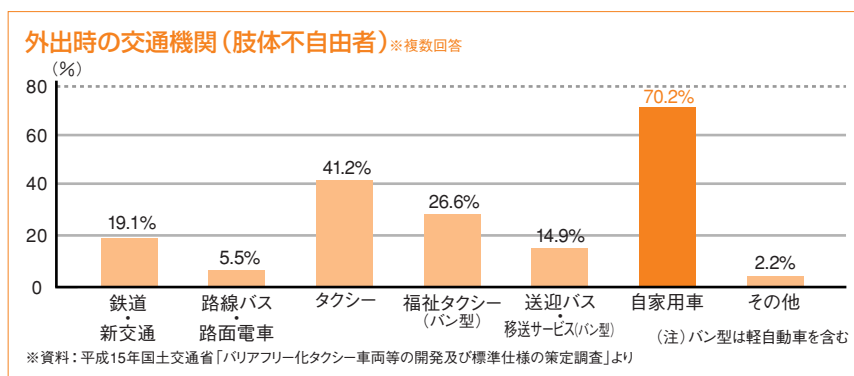
#### ○身体障害者数の増加

身体障害者数も年々増加しています。2001年の厚生労働省調査によると、全国の18歳以上の身体障害者数(在宅)は、10年前の1991年と比べると約50万人増え、計320万人をこえています。

#### ○多くの身体障害者の方が、外出時には自動車を利用

年々増えている高齢者や身体障害者の方の中では、「より積極的に社会参加したい」という意欲が高まってきています。こうした時代の中で、クルマは重要な移動手段として、“誰もが気軽に社会参加できるようにサポートする”という大切な役割を担っています。

例えば、肢体が不自由な方を対象にした調査では、外出時の交通機関として自家用車を使用する割合が最も高く、クルマに対する高い期待やニーズがあることがよく分かります。



### 福祉車両はパーソナルユースの時代へ

従来、福祉車両は福祉施設を始めとする法人ユースが中心、言わば都市型・公共の用途が主でした。しかし近年では、それらに加え在宅介護などパーソナルユースとしてのニーズ、言わば地方型・民間の用途での福祉車両への需要が拡大しています。

介護者自身が高齢化しており、またその多くが女性であるという現状を考え合わせると、パーソナルユース化する福祉車両には、介護する側にもされる側にも、より快適で使いやすく、さらに極力負担が軽減されることが求められています。

# Q. スモールカーは 福祉車両に向いているの？

34才 介護者の女性



## A. 誰にでも扱いやすく、気軽に乗れるスモールカーは、福祉車両に適しています。

### スモールカーは福祉車両に適したクルマ

住宅街などの狭い路地を曲がる、乗り降りを考えて玄関先まで乗り入れる、といった使い方が求められる福祉車両には、小回り性が良く、扱いやすいサイズのスモールカーが最適です。また、車両価格や維持費も安いいため、より気軽に乗ることができます。

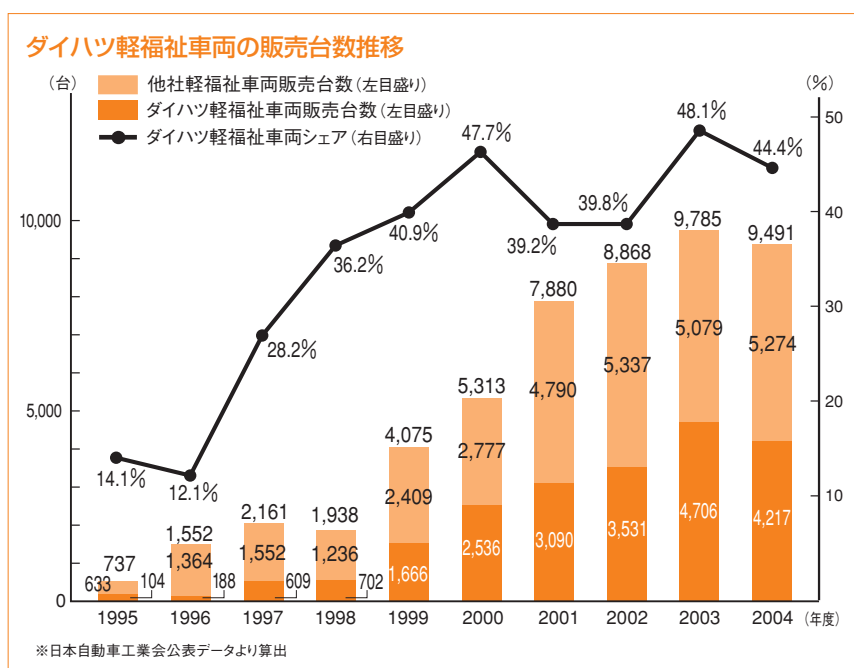
実際に、福祉車両に占める軽自動車の比率は、1995年度では13.2%でしたが2004年度には22.8%と大幅に伸びています。



### ダイハツは福祉車両の普及に努めてきました

ダイハツは福祉車両の必要性を早くから感じ、開発に取り組んできました。1979年にはすでに、運転補助装置付きの車両を発売。それから27年間、扱いやすく経済性に優れたスモールカーの特長を活かした、ユーザーフレンドリーな福祉車両の開発に力を入れてきました。1999年からは、これらのダイハツの福祉車両を「フレンドシップシリーズ」と呼び、より親しみやすく、誰にもやさしい車両づくりを進め、車種や機構などバリエーションも拡大してきました。

本格的に開発・販売を始めた1995年から起算して、2005年1月には軽福祉車両累計販売台数が2万台を突破。2004年度の軽福祉車両の販売台数は、4,217台にも上り、軽福祉車両全販売台数の44.4%のシェアを占めています。



## Q.最新の福祉車両って、何ができるの？

32才通勤に福祉車両を利用している男性





## A. ダイハツの「ミラ セルフマチック」なら、車いすごと運転席に乗り込むことができます。軽自動車では初の技術です。

### 軽初！ 車いすごと運転席に乗り込める「ミラ セルフマチック」

この度、ダイハツから軽自動車では初めてとなる、車いすごと運転席に乗り込める「自操式福祉車両専用車」が誕生しました。その名も「ミラ セルフマチック」。車いす利用者が自ら運転席に乗り込み、好きな場所へ行くことのできるクルマです。どなたでも気軽に扱える軽自動車というジャンルで、ダイハツが培ってきたスモールカー技術を活かし、より幅広い方々に「運転する楽しさ」「自在に移動できる楽しさ」を味わっていただくために開発しました。



ミラ セルフマチック 2005年11月14日発売

### 移乗と車いす積み込みの負担がゼロに

運転席への乗り込みは、リモコン操作で行います。大きく約90°まで開くドアを開けたら、あとは自動乗り込み装置により、保安基準に適合した専用車いすごと運転席に乗車。車いすから運転席に移乗する必要がありません。また、乗っていた車いすがそのまま運転席になるため“車外に残った車いすを積み込む”という負担もありません。

#### 作業手順



1. リモコン操作で自動乗り込み装置を乗車位置まで下降。



2. 車いすをユニットの中央位置まで後退させセット。



3. リモコン操作で車いすが上昇。前輪・後輪が自動的に上がり、運転席位置まで回転。



4. 運転席位置にセットされた状態で外側車輪を手動により後方へ移動。運転席位置まで回転。

### ベース車両「ミラ」の特長はそのままに

コンパクトな自動乗り込み装置を採用。「ミラ」の特長である広々室内を活かしながら、4名乗車を可能にしました。



### 一人ひとりの使いやすさに合わせて

運転される方一人ひとりの、障害の程度や状態に合わせた運転補助装置を選んでつけることができます。

※運転補助装置は専門メーカー各社による別架装となります。  
※「ミラ セルフマチック」のブレーキペダル、アクセルペダル等の運転装置はベース車両「ミラ」と同様の装備です。



## Q.福祉車両って、どんな種類があるの？

52才 車イス利用者の男性



# A. ダイハツでは軽自動車を中心に、ご利用者の多様なニーズに合わせた、豊富なバリエーションの福祉車両をご用意しています。

## 使い方に合わせて 選ぶ5タイプ、全14種類



ダイハツの福祉車両「フレンドシップシリーズ」では、ご利用者の多様なニーズにお応えするべく、次の5タイプで全14種類の豊富なバリエーションをラインアップしています。

### ● 車いすのまま乗り込む場合

#### 〈自分で運転〉

#### ○ 自操式福祉車両専用車 *Mira Selfmatic*



ミラ セルフマチック (2005年11月14日発売) ※運転補助装置付き車両

#### 〈介護者と一緒に利用〉

#### ○ スローパー *MOVE ATRAI HIJET*

スロープで車いすごと乗り降りできます。



ムーヴ スローパー-SL



アトレー スローパー (2005年内発売予定)

### ● 車いすを使わない、または車いすから移乗する場合

#### ○ 助手席回転シート車 *Mira miraVAN* レバーを引くだけでシートが回転します。



ミラ 助手席回転シート車

#### ○ 助手席回転スライドシート車 *MOVE MOVE CUSTOM* シートが回転したうえ、車外にスライドします。



ムーヴカスタム 助手席回転スライドシート車

#### ○ シートリフト

#### *MOVE MOVE Tanto ATRAI HIJET BODN* 電動でシートが回転、車外にスライドダウンします。



アトレー リヤシートリフト (2005年8月29日発売)



タント フロントシートリフト (2005年内発売予定)

## 全国の販売会社で福祉車両の常設展示を拡大

どなたにも気軽に福祉車両を体感していただけるように、全国の販売会社で積極的に福祉車両の常設展示を拡大しています。

滋賀ダイハツ販売  
フレンドシップ大津店





**We do COMPACT.**

**ダイハツ工業株式会社**

本社:〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号  
東京支社:〒103-8408 東京都中央区日本橋本町2丁目2番10号

本冊子に関するお問い合わせは広報・渉外部 広報室へ  
TEL〈東京〉03(3279)0815 〈大阪〉072(754)3047  
URL:<http://www.daihatsu.co.jp>

**R100**

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

2005年8月発行